

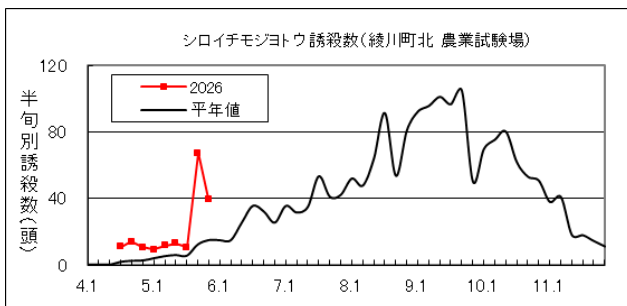
シロイチモジヨトウ・ハスモンヨトウの発生状況に注意してください

シロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウがフェロモントラップで多数誘殺されています。今後野菜、花き類での被害が増加することが懸念されます。

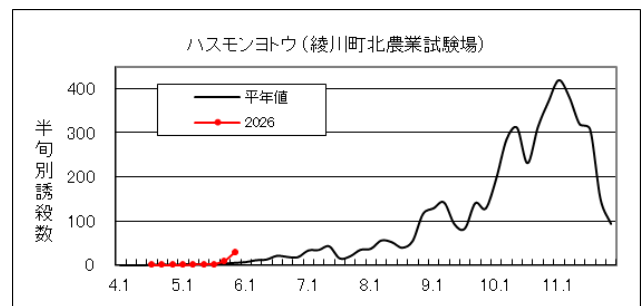
このため、圃場での発生状況をよく確認し、発生を認めたら防除を徹底してください。

1. 発生状況

- 1) 綾歌郡綾川町のシロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける5月第4半旬から5月第6半旬までの合計誘殺数は、117.5頭（平年32.3頭）で、平年に比べて多かった（第1図）。
- 2) 綾歌郡綾川町のハスモンヨトウのフェロモントラップにおける5月第4半旬から5月第6半旬までの合計誘殺数は、38.1頭（平年12.4頭）で、平年に比べてやや多かった。特に5月第6半旬の誘殺数が著しく多かった（第2図）。



第1図 シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺数の推移（綾歌郡綾川町）



第2図 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数の推移（綾歌郡綾川町）

2. 防除対策

- 1) 若齢幼虫は集団で食害し、その後周囲に分散するので、初期の食害発生に注意し、卵塊や幼虫集団は見つけしだい捕殺する。
- 2) 中老齢幼虫には薬剤の効果が劣ったり、ネギ等では食害して葉の内部に潜り込むと防除効果が低下したりするので、圃場をよく見回り若齢期に薬剤防除を行う。
- 3) ハウスの場合は開口部を防虫ネット（4mm目合以下）で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- 4) 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- 5) 令和6年度に実施したシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウの薬剤感受性検定では、シロイチモジヨトウではディアナSC、アニキ乳剤、グレーシア乳剤、プロフレアSCで、ハスモンヨトウではコテツフロアブル、ノーモルト乳剤、グレーシア乳剤、プロフレアSCで感受性が高かった。一方で、ジアミド系薬剤等に対する感受性が低くなった個体群があった

ことから、防除で効果が見られない場合は、防除薬剤の見直しを行う。

[ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ感受性検定（令和6年度）

(<https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboujo/byogaichu/boujo.html>)]

6) 防除薬剤は、主要農作物病害虫雑草防除指針、香川県監修の病害虫防除暦を参考にする。



香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針

https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboujo/byogaichu/sisin/byougaityuu_sisin.html



写真1 ハスモンヨトウ卵塊と若齢幼虫



写真2 ハスモンヨトウ若齢幼虫によるブロッコリーの食害



写真3 シロイチモジヨトウ卵塊（長さ：約1 cm）



写真4 葉身内を加害されたネギ



写真5 ネギ葉身を加害する老齢幼虫（体長：約3 cm）

- ・住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。
- ・農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojou/index.html>

